

午前10時54分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、9番稲富一實議員の質問を許可します。9番稲富一實議員。

（9番稲富一實君登壇）

○9番（稲富一實君） 皆さん、こんにちは。お忙しい中に議会傍聴においでいただきまして、まことにありがとうございます。

ことしの夏は、高温少雨の日々が続いておりましたが、ようやくにして涼しさを求める時期となってまいりました。

また、台風12号におきましては、長崎に上陸いたしまして、この朝倉市におきましては、被害もなく、後ほど熱帯低気圧に移行していくということで予報が出ておるところでございます。

未来ある朝倉市の創造に向け、市民皆さん方が日々の暮らしの中で心豊かに暮らせるまちづくりを目指し、一般質問を質問席にて続行させていただきます。

（9番稲富一實君降壇）

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 人口減少社会におきましては、どの市町村でも苦慮している状況の中でございますが、朝倉市では、定住人口減少を抑制し、地域活力の低下を食いとめるため、市外からの転入促進、市外への転出抑制の両面から子育てや教育、雇用、産業の振興、居住等、生活基盤の整備、そして自然環境など各分野での定住促進を柱に据え、行財政施策に取り組んでいる状況でございます。

先ほども住みよさランキングの関係が一般質問で触れられましたが、第23回全都市813市、全国で790の都市と東京23区、合わせまして813市のうち、住みよさランキングにおきましては、11位が9位になったということで、本当に喜ばしいことでございます。がしかし、自分たち、定住しておる一市民としては、この実感を踏まえてないというのが現状であらうかと思っております。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

人口減少の現状とその要因はということでございますが、朝倉市は合併後、10年で約5,900名の人口が減少している。その現状と要因はいかがなものか、質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（石井清治君） まず、住民基本台帳の推移から見ますと、合併時の平成18年3月の人口が6万900人ございました。平成28年の3月は5万4,995人ということで、先ほどより言われます、5,905人の減少と。これを人口の推移ということで出生者数と死亡者数の差を見ますと、まず、転入者の数と転出者の差を見ます社会増減の2つに見ますと、この10年間で、住民基本台帳の人口で平均年300人からの人口の減になっております。

で、自然減で見ます、これは、出生者数で見ますと毎年400人台で出生がされておりま

して、死亡者数は年600人から700人ということで、この差に基づきまして5,905人という数字が導き出されております。

その中でも若年者、これは国勢調査の数字からひもときますと、平成17年の15歳から19歳の人口が5年後、平成22年には834人、これは恐らく大学や、あるいは就職の機会に市外に転出するためということで、これが若年者層の流出、転出の要因だということで認識をしております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 人口動態におきましては、そのような経緯であろうと考えておりますが、片や総合戦略に基づき、人口をふやしていくためにどのような施策に取り組んでいるのか、私は、一つの例でございますが、働く場づくり、結婚対策、子育て支援、教育環境の整備の4つが重要ではないかと考えておるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（石井清治君） 議員言われますように、先ほどの4つの項目については、どれをとっても人口ビジョン、定住に向けての大事な施策ということで認識をしておるところでございます。

昨年10月に策定をいたしました朝倉市人口ビジョンのまず目標というのが、合計特殊出生率を1.86を目指します。現状が1.44ということで、この1.86に達成するために人口ビジョンの設定を行って、現在、総合戦略を着実に実施していこうということで考えておるところでございます。以上です。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 確かに、地方創生に特化した、朝倉らしい地方創生の取り組みは言うまでもありませんが、市の諸事業、一般会計部門で689の事業があるわけでございますが、このうちの9つの事業におきましては、この地方創生、26年度から27年度より地方創生事業がスタートしておりますけれども、9つの事業が上乘せされた諸事業でございます。

経常的な事務事業の遂行と特化した中での人口増につながる施策、これはどれをとっても厳しさがあるわけでございますけれども、先ほど触れましたように、定住促進に向けた取り組みにおきましては、働く場づくり、結婚対策、子育て環境、そして教育環境の改善が必要ではないかと考えております。

そういった中で、結婚対策におきまして婚活対策係の設置はできないものか、常日ごろ考えておるところでございますが、係としての、独立した係は厳しいかと思っておりますが、兼務でもよろございますが、アピールしていくためにはこれも一つのよさではないかと考えておるところでございます。また、これに付随して、婚活サポートセンターの設置はできないかお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 婚活のことについてのお尋ねでございますが、現在、結婚対策、婚活については、子ども未来課のほうで実施しておりまして、結婚応援のための若者の出会いの場を提供する団体への支援、縁結び応援事業というものを行っております。

平成27年、昨年度の実績でございますが、5団体、申請ございまして、事業を実施されまして参加者が203名ございました。そして、カップル数、成立したカップル数が39組ございました。本年度は3団体から、今、申請が上がっているような状況でございます。

結婚対策に特化した課・係の設置ができないかということでございますが、現状では、子ども未来課の子育て支援係が兼務で、ほかの子育て支援事業と兼務で実施いたしております。

現事業で一定の成果が出ているというふうに考えておりますので、課の新設、係の新設ということではなくて、継続して現体制で取り組んでいきたいというふうに考えております。以上でございます。

それと、サポートセンターについても、今の体制で行きますので、特段、別に設置ということは考えておりません。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 補助金を出して事業を推進されているということは十分わかるわけでございますが、住みよさランキングを含めまして、やはり人口を少しでもふやしていくためには、子ども未来課なり、ふるさと課、こういった課になるかわかりませんが、やはり婚活係というのは当然設置してもいい時期に来ているのではないかと思います。

また、補助金の投げ渡しで39組がおつき合いが始まったということでございますけれども、これをサポートするサポートセンターの設置もあわせて考えるべきではないかと考えておりますが、副市長、いかがでございましょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 朝倉市におきましては、当初、この婚活——縁結び事業ですけれども——につきましては、当初、県の補助事業ございまして、それで2年かな、3年か、やったと思います。その後、県の事業がなくなりました。それ以降については、市の単独事業として、今日までこの事業に取り組んでおります。その事業に取り組むときにも、いろんな考え方、ございました。

朝倉市においては、現在はそれぞれの任意団体、例えば青年会議所ですとか、消防団ですとか、ほかにも地域ですとか、そういった方々がやっております。それに対する補助という形にしております。

これを見てもみますと、こういった事業に、じゃあ、行政はどこまでかかわっていくのかという問題が出てまいります。当然、補助して、事業について支援をしていくということは、当然、行政やりますけれども、それ以上、行政が中に入り込んでやるということがど

こまでなのかということが非常に難しい問題がございます。

一方で、こういった事業については、むしろ、そういった民間の方々が主になってやったほうがうまくいくということもあります。一方では、ある方から言われて、いわゆる、そういった結婚のお世話をする専門の業者を雇ったらどうかという話もございましたけれども、それについてはちょっとお断わりをしたという経緯がございます。

ですから、言われますように、行政のかかわりについては、今後、やっぱり十分検討していかなきゃならないと思いますし、また、今、御存じのようにインターネットの時代になってまいりました。

実は、私の個人的な知り合いの方が、これは個人です。個人で、いわゆるホームページ含めて、インターネットを使って男性と女性を結び合わせるようなことを個人で活動されています。そういったことについても、じゃあ、行政としてそういったことに何かできるものはないかということも研究しながら、今後、より効果のある、そして喜んでいただけるような縁結び事業にしていきたいというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 夢のある施策に取り組んでいただければと考えております。

また、先ほども申し上げましたように、子育て支援の関係におきましては、以前にも1回、一般質問、立たせていただいておりますが、義務教育課程、中学3年までの医療費の無料化に向けた取り組みができないか、再度質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 中学生までの医療費の完全無料化ができないかということでございますが、その前にちょっと現状を、朝倉市の子ども医療費の現状を若干説明させていただきますと、就学前の乳幼児に関しては、22年の8月より医療費の無料化をいたしております。小学生につきまして、23年の7月から市の独自助成として入院に係る医療費の一部助成をいたしております。それと、本年10月から子ども、小学6年生までの通院に関しても、これも一部助成をするようにいたしております。

中学生につきましてでございますが、これについては、26年8月より独自助成として入院に係る医療費の一部助成をしているところでございます。現時点で、子ども医療費の、中学生までの医療の無料化を図りますと当然予算も出てまいりますので、どのくらいこれに係る費用が、経費がかかるかというのを試算してみましたら、その数字をざくっと説明させていただきますと、中学生までの完全無料化しますと、27年度の予算に約6,200万円ほど追加で予算が必要になるような試算でございます。ことしの10月から小学生まで通院を拡大いたしておりますので、中学生については、県のほうの動向も勘案しつつ、検討したいと考えております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） それこそ六百八十幾つの事務事業の中で、やはり定住促進を促し

ていくためには、いろんな施策の中で特化した、経費を増額しながらも厳しい財政状況の中で施策を打つべきであろうと考えておるわけでございます。

義務教育課程におきましての医療費の無料化、6,200万円程度、中学生においては必要になってきますよという試算が出ておるわけでございますが、俗に言う一般会計予算290億円の6,000万円ではないかという裏返しもできるわけでございますので、ここら付近も十分踏まえていただければと考えておるところでございます。

続きまして、空き家バンクについてお尋ね申し上げます。

この関係におきましては、過去にも一般質問をさせていただいたわけでございますが、空き家バンク制度として7月1日より実施されておりますが、経緯や内容、また現在までの登録等の状況、これは20件程度あるということはお伺いしております。

また、登録されている空き家バンクの中で農地がついている物件がありましようか、質問いたします。

○議長（浅尾静二君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） 現在、空き家の有効活用につきましては、まず、空き家バンク制度の実施要綱をつくっております。それから、利用されない、放置された、利用方法がわからない、相談を受けながら空き家バンク制度を紹介を行って、登録の協力を行っているところです。

7月1日から登録を開始しております。で、議員のほうからおっしゃいました、8月末現在までには登録件数は3件、こちらの物件に関しましては、甘木、杷木松末、金川、この3件が上がってきております。こちらのほうは、もう9月1日より入居者募集を開始すると同時に、市のホームページのほうから、移住・定住、空き家暮らし、空き家バンクのほうをクリックしていただければ見れるというところです。

農地付きの空き家に関しては、ただいま農業委員会のほうと一緒に協力をし合って話を進めているところです。今のところ、農地の空き家件数はまだ上がってきておりません。空き家の分だけを今扱っておる状態です。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 登録20件におきましては、農地つきではない空き家で登録がされておるということでございますが、過去に3件、私のほうに問い合わせがあった状況でございます。田舎のほうに行きますと、家屋に農地がついておるという状況でございますが、この関係におきまして、当然また後ほど質問させていただきます。

農地の取得について質問させていただきます。

農地法において下限面積が定められておる朝倉市において、多くの地区が50アール、5反となっておりますが、そのために農地取得の妨げになっているとも思われます。この下限面積についての見直しなどは行っているのか質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（石橋一良君） 農地の下限面積の見直しについてでございますが、この農地の下限面積の見直しにつきましては、平成22年に農業委員会の適正な事務実施が一部改正されまして、農業委員会につきましては、毎年、下限面積の設定または修正の必要性について審議することとなっております。

その基準となりますのが農林業センサスのデータとなっておりますので、そのデータに基づき審議を行い、現在下限面積につきましては、甘木・秋月地区が30アール、高木・杷木地区が40アール、それ以外が50アールということの設定となっております。見直しにつきましては、毎年審議は行っております。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 先ほども触れましたように、下限面積により、空き家についている小さな面積の農地取得が難しく、空き家は購入したいが農地が取得できずに断念しているという問い合わせもあっておる、3件問い合わせがっておりますが、農地法という縛りの中で厳しいのはわかっておりますが、下限面積の弾力的運用ができないかということとで前回質問いたしました。定住促進を図る上でも考えていかなければならない大きな要因ではないかと考えておりますが、農地つき空き家につきましての下限面積の見直しについて、どのように考えてあるのか質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） ただいまの地方創生への取り組みの一つに、地方移住による地方の人口減少を食いとめる施策がございます。去年に議員より御質問を受けまして、定住人口をふやす目的を鑑みまして、ふるさと課と連携いたしまして、農業委員会において中山間地における農地つき空き家のこの農地の取得にかかわる農地法の諸条件の緩和を行い、家庭菜園程度の小規模農地の取得を可能にすることで、田舎暮らしを求めております地方移住者への受け入れに配慮した魅力ある田舎暮らしの土台づくりをしていきたいと考えております。

現在、緩和の承認に向けた作業を進めております。結果、人を呼び寄せ、人口減少の歯どめになればと考えておる次第でございます。以上です。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 農業委員会という委員会がございますので、十分な協議のもとに重たい決断をお願いしたいと考えておるところでございます。

続きまして、安全・安心なまちづくりについてを質問いたします。

自主防災組織におけます関係で質問をさせていただきます。

朝倉市におきましては17のコミュニティ、229の自治区における施策が総合的に組み立てられておりますが、17コミュニティの自主防災組織の設置、そのものは行ってありますが、指導していく行政としては、自主防災組織や機能の充実、育成について、また、組織の意識向上に向けた方向づけはどのように考えられているのか。

前回の答弁の中では、1つのコミュニティに対し——17コミュニティあるわけですが、1個のコミュニティに対し、1つのモデル行政区をつくり、それを全体に広げていくという施策を打っていくという過去の答弁があったわけですが、その後の啓発事業はどのように進められているかお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 防災交通課長。

○防災交通課長（草場千里君） 今、議員が言われましたように、17地区の自主防災組織に対して1つモデルをつくらうと。で、そのモデルから、その集落全体に、地域全体に広げていこうというようなことで進めているところでございます。これは、介護サービス課と一緒にしまして、地域見守り支援体制ということでやっておるところでございます。

例えば、その後のフォローということでございましょうが、まずはその公民館等に集まっていたいただいて、誰が誰を支援しながら避難をするというようなことを話し合いをしていただき、その後、各地域で、例えば避難訓練をしていただくとか、というようなことを計画していただいたときに、防災交通課として、そこに行きまして、お手伝いなり、助言するようなことがあれば助言をしていきたいというふうに考えながら、今、推進しているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 私と半田議員におきましては、地元のほうの朝倉地域のコミュニティの運営委員会に所属しておりますが、この関係におきましても、市役所のほうから仕掛けはありますものの44区、5区に対します、その裾野の広がりが少ないというのが現状でございます。

これは、自己啓発の足りなさを感じておるわけですが、その仕掛けをいま一度、いま一度、防災交通課で打っていただいて、その受け皿としてコミュニティが、朝倉地域であれば45区の集落における各施策に取り組む防災意識の向上に向けた取り組み、こういった日々の訓練も必要でございますし、そういった意識向上に向けた仕掛けをぜひやっていただきたいと考えておりますが、いかがでございましょうか。

○議長（浅尾静二君） 防災交通課長。

○防災交通課長（草場千里君） 防災交通課といたしましても、地域によっては温度差がかなりありますので、こういう自主防災組織の活動が十分でないところにつきましては、今後、積極的に協力をしながらしていきたいというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 地域差のある、当然ながら229自治区があるわけですが、そこら付近は十分わかるわけですが、もう一丁、踏み込んだ中での施策、果敢な施策に取り組んでいただけないか質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 防災交通課長。

○防災交通課長（草場千里君） 今言いましたように、温度差もあるところもござい

ので、防災交通課のほうからコミュニティのほうに再度連絡をとりながら、こういう自主防災組織の活動をさらに推進をしていきたいというふうに考えます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 続きまして、消防行政について、非常備消防について質問いたします。

消防団は、指揮命令で統制のとれた郷土愛護の崇高なる消防精神で、朝倉市最大のボランティア団体であると確信をしておるところでございます。さきの平成24年の九州北部豪雨災害時や、本年8月12日より行方不明者の搜索等、消防団一致団結されまして、市民の安全・安心なまちづくりがため、日夜献身的に御尽力いただいておりますことに対しまして、感謝と敬意を申し上げます。

また、昨日、県のポンプ操法大会が台風関係で延期になったということを知り及んでおりますが、これにおきまして、連日連夜の訓練に、大会に臨む訓練、お疲れさまでございます。本当に感謝申し上げますが、朝倉市が誕生し11年目を迎える中で人口5,900名、約5,900名の人口が減少しておる状況下でもございます。

また、消防団運営におきまして、定数979名、現団員数864名ということで、この10年間で96名の、年度においてはプラス・マイナスはあろうかと思いますが、現状においては96名の減、団員数という状況でございますが、各分団運営等々に年々厳しさが増していることを察しておる状況でございます。この状況を防災交通課としてどのように捉えられておるのか質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 防災交通課長。

○防災交通課長（草場千里君） 年々消防団の定数につきましても少なくなっているところではございます。この原因につきましては、少子高齢化や勤務形態の多様化が上げられるところであるというふうに思います。

そういった中で、消防団の行事などにつきましても、参加が難しくなってくるというような団員の方も中には出てきていることも承知はしております。防災交通課といたしましては、消防団、団の運営のほうとの話もいたしまして、消防の行事のほうについては、なるべく削減を今までしてきたところでございます。

4月の訓練等につきましても、今は4月の日曜日3回にしておりますが、以前は4回とも、4回の日曜日に出ておったというようなことも聞き及んでおります。

また、大きな行事の一つでありますポンプ操法大会におきましても、現在は15日というようなことで、分団長会などで決められているところでございます。

そういうことで、消防団行事などにつきましては、なるべく少なくして最小限の部分にしているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 私は、消防委員会あるいは消防団幹部の方々の協議の積み重ねで



あろうと察しておるところでございますが、例えばですよ、例えば人口規模で、1万人規模の分団で片や団員数65名、片や36名ということでございます。この現状を考えた場合において、合併後10年を経過しておるわけでございますので、ここら付近も含めて当然改革に向けた取り組みができないか、防災交通課長にお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 防災交通課長。

○防災交通課長（草場千里君） 地区によりましては、1つの地区で約1万人の人口があるところもあります。で、別の地区によりましては、2,000人とか3,000人で団員数を確保されているというようなところもございます。

特に、ここ10年ぐらいの間に、先ほど議員も言われましたように、5,900名も人口が減少する中では、かなり人口が動いておるといようなことは承知しております。

ただ、ふえているので団員数をふやせるのかどうかというところも議論の余地があると思います。

また、分団の、言われておるのは、多分、分団を統合するとか、例えば3つを2つにするとか、2つを1つとか、そういった部分であると思います。この部分につきましては、地域とのかかわりもございませし、消防団のほうとのかかわりもございませるので、今から考えていかなければならない大きな事案だというふうには考えておりますが、すぐにどうできるというふうなものではございませるので、今後の大きな課題であるというふうにご考慮しておるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 当然ながら、一朝一夕にして結論ができる問題ではございませぬ。3市町ともに伝統ある消防団が合併し、今日を迎え、合併前の消防団員の実数と、定員数と変わらない形で来ておりますので、そこら付近を含め、なおかつ住民の合意形成のもとでやはり統合せざるを得ない分団等々もあるやもしれませぬが、ここら付近は十分、消防委員会等々もございませぬので、十分な議論を積み重ねていただいて、ぜひとも方向性を出示していただきたい。

ポンプ操法一つにとりましても、先ほど説明がございましたが、私は日数を減らしてくれと言っているのではございませぬ。行事を減らしてと言っているのではございませぬ。30名の団員の中で、この30名におきましては異業種の団体でございませぬ。その中でポンプ車と可搬、2班体制で毎年ポンプ操法大会に臨んでおりますが、訓練を重ねる日におきましては、部長や指導員がピンチヒッターで選手の代行を図っておるとい状況でございませぬ。課長、それこそ現場に行って、耳を澄まして団員からの聞き取りをぜひともお願いしたいと考えておりますが。

○議長（浅尾静二君） 防災交通課長。

○防災交通課長（草場千里君） ポンプ操法の訓練というか、ポンプ操法大会に向けまして、各分団それぞれ、それぞれの思いで出場チームを出しておるところでございます。分

団によりましては、複数のチームを出すということもされているところもある一方で、どちらか一つしかもう出せないというような分団もございます。

そういうところで、訓練等の中でよく十分に認識をしながら、今後考えなさいというようなことでもあると思いますので、そういった部分、そういった意見があるということも踏まえて、今後考えていきたいというふうには思っております。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） それこそ、先ほども触れますように、一朝一夕で結論ができるわけではございません。置いたリングをとるごたるふうにはいきません。でありますかゆえに、数年の経過、経緯があろうかと思いますが、この関係においては、ぜひとも改革に向けた取り組みを仕掛けていただければと考えておるところでございます。

時間の関係がございます。続きまして、国道322号線のクランク解消について質問いたします。

さきの全員協議会では、国道322号の道路事業に伴い、移転が必要となる駅舎の移転に合わせた周辺整備の計画実施が求められているという説明を受けていましたが、このことと未来の朝倉市のまちづくりをどのように組み合わせていくか。

また、国道322号の関連工事については、南のほうでは大刀洗バイパスが完成し、北側の、北部のほうにおきましては、トンネル工事の着工が行われるなど、着々と整備が進んでいる状況であることは承知しております。このことによっても、いよいよ甘木駅周辺の国道整備となり、ショートカットとしてクランクが解消されることになるとは思いますが、朝倉市の未来を創造して、どういうまちづくりを目指しているか質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 国道322号のクランク解消のため、都市計画法に基づきます都市計画道路の見直しを行っています。これは、駅南側に計画されておりました都市計画の道路は廃止、そして既存道路であります国道322号にこれは集約されるものでございます。

この都市計画道路の見直しの中では、クランク解消を伴います線形見直しに加えまして、駅南側の数本の都市計画道路の廃止を予定しておるところでございます。

そして、この都市計画道路廃止後のまちづくりをどのように行うかといいますと、計画道路沿線に予定されるべきであった宅地開発について、駅周辺整備ということを計画していく必要があると考えております。何分、土地が駅周辺といいますと、公的な立地ということでもありますので、いろんな可能性を秘めているエリアだと思っております。

駅周辺の整備を進めていく中で、まちづくりといったものを考えていくこととなります。それと、現状の駅南側の土地は道路幅員が非常に狭うございます。建築基準法に基づきます道路、また開発許可に必要な幅員の道路が存在しておりません。加えまして、未利用地が多い状態でございます。道路整備によりまして開発が進み、居住が進んでいくであろう

ことは容易に考えられると思いますが、有効な土地利用を考えますと、虫食い状態の開発は避けなければならないと思っております。

長いスパンで未来の朝倉市を創造し、加えまして、計画的なまちづくりを考えていかなければならないと、こういうふうに思っております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 駅周辺でありながら、開発が今日まで進まなかった、この要因はどこにありますでしょうか、質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 長い間、都市計画道路という指定をしておりました。しかしながら、朝倉市内の優先順位を置く中で、そのまま取り残された経過がございます。

ただ、その中には、いろいろな現在の指定しております都市計画道路の、最初に指定したときの時代と現在までの経過の中で、いろんな法律の変更だとか、そういったところがございまして、このままの状態ではできないというような、そういう理由もございました。

さまざまな理由から都市計画道路の実施が行なわれなかったために、現況、先ほど部長のほうからありましたように、道路の幅員というものが開発するなり、建築物を建築するなり必要でございます。現状のところ、駅周辺の環境というものは、そういった基礎的な状況がまだ整備されない状態であるということでございます。

これらのことにつきましては、都市計画課としても課題と捉えておまして、これまでいろいろ検討をしてきたわけでございます。しかしながら、今回のクランクと、クランクの解消とか国道322の問題というものにつきましては、平成の13年ぐらいから長きにわたりまして課題として取り組んできた経過、それがいつ解消できるのかということや、関係機関と協議して現在まで来たところでございます。その関係で現在に至ったということでございます。そのことを今回のクランク解消に組み込みまして、組み合わせまして計画的なまちづくりを今後進めていこうと考えております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） 現段階でのまちづくりの可能性として、具体的にはどのようなことが考えられるのか、人口減少の現状における対策となり得るのか質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） どのようにするかということですが、現在そういったことについて検討をやっておる段階ですので、ここでは他市の例ということで、具体性ということについてかわりに説明させていただきたいと思っております。

近辺で、鳥栖市であるとか、柳川であるとか、二日市であるとか、いろんな形で駅周辺整備事業というものが進められている現状がございます。その他市の例から申しますと、やはり駅周辺という公的立地の中で居住誘導だとか、商業区域だとか、そういったものを計画的にこう、誘致計画を行いながら用途地域の見直しを行うなど、そういった土地利用

計画の政治を行っていくと、そういったことが必要であるというような形で進められている他市の例がございます。

駅周辺の居住人口の増、そういったことによって大事な公共交通機関であります甘木鉄道、西鉄——西日本鉄道の新規需要、そういったものも期待できるものでございます。

そういった将来的な鉄道利用環境が確保されるということは、未来の、将来の利便性のよい朝倉市、魅力あるまちというふうなこと、居住人口の増というものが期待できると思います。

また現在、都市計画課と市街地活性化推進室、一緒になりましたけれども、新プラン21、この事業につきましても、駅周辺の整備によって、相乗効果により活性化が期待できるものと期待をしているところでございます。

それではということでございますが、これらの計画をより実現可能な状態とするということのために、先日も説明させていただきましたように、8月10日にUR都市機構と朝倉市が駅周辺整備に関するまちづくり協定というものを行っております。そういうネットワークを利用させていただきながら、現実的に有効なまちづくりを今後進めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員。

○9番（稲富一實君） もろもろの大きな大きな問題でございますが、一個一個難題を踏み締めて方向性を見出していきたいと考えておるところでございます。

本日の未来ある朝倉市の創造に向けた一般質問におきましては、合併し、11年を迎える中で、森田市長指揮のもと選択と集中、そしてスピード感のある行政施策に果敢に取り組んでいただくことを望むものでございます。

また、朝倉市に住みたい、住んでよかったと言える心豊かなまちづくり、すてきな笑顔に会えるまちづくりを市民と行政、議会が一体となり、ともに創造していきたい、いかなければならないと考えております。

これで、私の一般質問を終えさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（浅尾静二君） 9番稲富一實議員の質問は終わりました。

午後1時まで休憩いたします。

午前11時45分休憩